

令和3年度 教育事務事業点検評価報告書

令和5年3月

宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	2
事務事業点検評価書		
1	I-1 教職員の労働安全衛生管理業務	・・・・・・・・ 3
2	I-2 選手派遣費支援事業	・・・・・・・・ 4
3	I-3 宮古島市次世代教育 I C T整備事業	・・・・・・・・ 5
4	I-4 学力向上推進事業	・・・・・・・・ 6
5	I-5 特別支援教育支援員配置事業	・・・・・・・・ 7
6	II-1 移動図書館事業	・・・・・・・・ 8
7	II-2 体育振興事業	・・・・・・・・ 9
8	II-3 みやこ少年少女合唱団補助事業	・・・・・・・・ 10
9	III-1 マティダお笑い劇場支援事業	・・・・・・・・ 11
10	III-2 宮古島市neo歴史・文化ロード整備事業	・・・・・・・・ 12
11	III-3 博物館運営事業	・・・・・・・・ 13
12	IV-1 課題を抱える児童生徒の支援事業	・・・・・・・・ 14
13	IV-2 放課後子ども教室	・・・・・・・・ 15

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから13事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

令和5年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は令和3年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進
- II みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実
- III 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸能活動の推進
- IV 家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進
- V 多都市間交流の推進

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

(4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
野原 敏之	元宮古島市教育委員
饒平名 和枝	宮古島市文化協会会長

2. 事務事業評価一覧表

評価書番号	所管課	事務事業名	評価
I-1	教育総務課	教職員の労働安全衛生管理業務	A(拡充)
I-2	学校教育課	選手派遣費支援事業	A(拡充)
I-3	学校教育課	宮古島市次世代教育ICT整備事業	A(拡充)
I-4	学校教育課	学力向上推進事業	B(継続)
I-5	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業	A(拡充)
II-1	図書館	移動図書館事業	A(拡充)
II-2	生涯学習振興課	体育振興事業	B(継続)
II-3	中央公民館	みやこ青少年少女合唱団補助事業	A(拡充)
III-1	生涯学習振興課	マティダお笑い劇場支援事業	B(継続)
III-2	生涯学習振興課	宮古島市neo歴史・文化ロード整備事業	E(完了)
III-3	総合博物館	博物館運営事業	A(拡充)
IV-1	学校教育課	課題を抱える児童生徒の支援事業	A(拡充)
IV-2	生涯学習振興課	放課後子ども教室	B(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

教職員の労働安全衛生管理業務

【目的・計画概要等】

労働安全衛生法（以下、「法」という。）に基づき、宮古島市立小・中学校における職員の安全と健康の確保、快適な職場環境の形成促進を図ることを目的とする。
平成31年度より、保健師を配置。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
<ul style="list-style-type: none"> ・宮古島市立小中学校職員安全衛生管理規程に基づき実施 ・産業医業務委託（平良中学校 委託先：下地診療所） 法第13条第1項の規定に基づき、職員が50人以上いる学校に産業医を配置 月1回の衛生委員会実施、長時間勤務者・高ストレス者への面接など ・定期健康診断（法第66条） 年1回、集団での健康診断を実施。 247名受診 ・人間ドック式健康診断（県費職員のみ） R2年度からの委託事業 公立学校共済組合に委託 265名受診 定期健診と人間ドックを合わせた受診率 83.8%（R2年度 83.3%） ・ストレスチェック制度の実施（公立学校共済組合に委託） （法第66条の10） 実施率 65.6%（R2年度 61.4%） ・職員が50人未満の学校における医師面接 （法第66条の10 3）（委託先：下地診療所） 長時間勤務者（時間外80時間以上）で医師面接希望者に実施 実績 9名 高ストレス者で医師面接希望者に実施 実績 0名 ・職員が50人未満の学校における医師からの意見聴取 実績 98件 （法第66条の10 3）（委託先：藤川医師） ・カウンセリング事業（委託：ていんぬぼう診療所）（市独自事業） 学校職員及び教育委員会職員対象に実施。実績 2名 ・公立学校職員新型コロナウイルス感染症対策事業 （R4年度分も見据えて、R4.2月に購入） 濃厚接触者の待機早期解除のための抗原検査キット配布 1件 	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	4,935,537 円
	計	4,935,537 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	総合評価
必要性	学校職員が健康であることで、子ども達に適切に関わることができ、子どもたちの「生きる力」の育ちにつながる。	総合評価：A（拡充）	
効率性	保健師配置により、これまで学校現場では後回しにされがちな職員の健康管理が、効率よく実施できる。	労働安全衛生法で義務となっている体制について、R2年度時点で未整備だった「職員が50人未満の学校の健診結果に係る医師の意見聴取」が整備できた。また、10月から全学校職員対象の「長時間勤務者の医師面接」が整備できた。そのほかにも産業医から意見聴取を実施する場として、年1回の会議を実施することができた。	
有効性	今後業務の継続や相談体制の整備をしていくことで、学校現場での健康管理の意識が高まり、子どもたちの健全な成長につながる。	相談体制は整ってきているものの、利用が少ない。気軽に相談できる体制整備が必要と思われる。	

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

<p>昨年度よりも教職員の長時間勤務の実態把握が適切に行われており、健康管理等への意識改善が図られている。 教職員個々の認識に多少ずれがあるが、医師との連携を深め、引き続き充実に向けて取り組んでください。</p>	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

選手派遣支援事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立学校のスポーツ・文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、地区選抜代表選手等に対し、航空運賃に係る費用の一部を補助する。

【補助対象経費】航空運賃（県内1/2、県外7/10）、楽器輸送費・上限5万円
 【事業の目的】島外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせる。
 【成果目標】保護者に対するアンケート「児童生徒が広い視野を持てたか」（80%以上）

【実施状況】

スポーツや文化面で地区代表選手等として島外へ派遣される延べ449人の児童生徒に対し旅費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図った。 ○主な派遣先【小学生（県内）528人（県外）22人】 【中学生（県内）836人（県外）63人】 ・小学生：県内「第46回沖縄県アンサンブルコンテスト」47名 「第36回沖縄県ミニバスケットボール冬季選抜大会」99名 「第41回全日本バレーボール小学生大会沖縄県大会」80名 県外「阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会2021」16名 ・中学生：県内「第61回沖縄県吹奏楽コンクール」100名 「第34回女子第45回男子沖縄県中学校駅伝競走大会」76名 「第73回沖縄県中学校野球選手権大会」47名 県外「第66回九州吹奏楽コンクール」49名	決算額（財源内訳）	
	国・県	9,205,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	4,451,265 円
計	13,656,265 円	

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	宮古島市は、島嶼県の離島であると同時に、高失業率や世帯所得水準の低い中、児童生徒が県及び全国大会等へ出場する際の旅費の捻出が、保護者にとって大きな負担となっている。	総合評価：A（拡充） 新型コロナウイルス感染症の影響は昨年に比べて少なくなり、申請件数が大幅に増加した。 また、保護者アンケートでも高評価を得ており本事業のニーズは依然として高いことが伺える。 今後は補助対象を拡大しつつ、申請手続きの改善に努めたい。
効率性	学校単位で派遣出発の1週間前までに申請する。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、体調不良等による直前での選手変更等への対応など、新たな課題が生じている。	
有効性	保護者アンケートでは「児童生徒が広い視野を持てたか」に対し「そう思う・ややそう思う」との回答率が97%であり、学校のスポーツ・文化活動の振興に寄与できたといえる。	

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

派遣費補助の対象や条件を拡大し、より多くの児童生徒がその恩恵を受けている。離島である宮古島において、必要不可欠な事業だと思っているので、今後とも保護者の経済的負担の軽減を図って欲しい。	総合評価 A
--	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

宮古島市次世代教育ICT整備事業

【目的・計画概要等】

<p>令和2年度にGIGAスクール構想の実現に向けた整備方針等を反映し改訂した「宮古島市教育情報化推進計画」に基づき、学校教育における「情報活用能力」育成のための環境整備やICT活用推進を進める。</p>
--

【実施状況】

【次世代教育ICT整備事業】			決算額（財源内訳）	
事業名	内容	決算額		
ICT支援員報酬等	支援員4名の報酬、期末手当、教育支援委託業務等	16,750,657	国・県	円
電子黒板保守	H30、R1導入の電子黒板350台に係る保守業務委託契約	11,680,680	地方債	円
公立学校情報通信ネットワーク環境整備事業保守業務	宮古島市立小中学校の校内LAN保守業務	2,349,600	その他	円
公立学校情報機器設備事業学習者用タブレット貸借	宮古島市立小中学校の学習者用タブレット5200台の貸借契約	19,067,400	一般財源	57,248,709 円
下地中機器リース	下地中タブレット65台、授業支援アプリの貸借	1,182,225	計	57,248,709 円
モバイルWi-Fi通信料	モバイルWi-Fiルーター510台の通信料	4,894,560		
その他消耗品、修繕費用	PC周辺機器消耗品、修繕等	1,323,587		

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	情報活用能力の育成は必要不可欠であり、地域や家庭の格差無くこれを育成するため、学校教育における取組が重要であり、そのための環境整備は必須である。	<p>総合評価：A（拡充）</p> <p>1人1台のタブレット等、授業におけるICT活用の環境整備は概ね完了している。環境の維持（運用管理等）、ICT支援員の人材確保（人員増）やスキルレベル安定に努め、教員のサポートを充実させる等、これを有効活用することにより高い教育効果を生むことを目指す。令和4年度からは学習eポータル導入、情報政策課からの業務移管による教職員用PCの管理も行う。</p>	総合評価
効率性	整備内容については適正であり、効率的と考えている。		A
有効性	学校現場での活用のため、必要な環境整備がされており、有効である。		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

<p>GIGAスクール構想により1人1台の端末環境は、令和の学校教育を大きく支える新たな教育の技術革新だといえよう。これまで蓄積した教育実践を土台とし、様々な教科の中でICTの活用により学習活動の充実を図ることで、より高い教育効果が期待できるものと確信いたします。Society5.0時代を生きる子供たち一人ひとりに情報活用能力を身に付けるとともに、今後ともICT環境整備の拡充を図り、未来の担い手となる子供たちの資質・能力をよりよく育てていきたいと思っております。</p>	<p>総合評価</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>
---	--

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

学力向上推進事業（標準学力調査）

【目的・計画概要等】

<p>○ 目的 宮古島市の児童生徒の学力の状況について把握するとともに、結果資料の分析を通して本市、及び各学校の成果と課題を明らかにし、学力向上の取組を推進する。</p> <p>○ 計画概要 (1) 4月に標準学力調査を実施する。（該当学年・教科については実施状況に記載） (2) 調査結果資料による分析を通して学力に係る成果と課題を把握し、指導改善の実施。 (3) 小中学学力向上担当者を対象に標準学力調査結果説明会の実施。 (4) WEB評価支援システムによる復習教材等の活用。</p>

【実施状況】

<p>以下の学年、教科で標準学力調査を実施した。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <小学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6年</td><td style="text-align: center;">英語</td></tr> </table> </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <中学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">1年</td><td style="text-align: center;">国語・数学</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・数学・英語</td></tr> </table> </td> </tr> </table>	<小学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6年</td><td style="text-align: center;">英語</td></tr> </table>	2年	国語・算数	4年	国語・算数	6年	英語	<中学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">1年</td><td style="text-align: center;">国語・数学</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・数学・英語</td></tr> </table>	1年	国語・数学	2年	国語・数学・英語	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">決算額（財源内訳）</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">国・県</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地方債</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">その他</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">3,690,440 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">3,690,440 円</td> </tr> </table>	決算額（財源内訳）		国・県	円	地方債	円	その他	円	一般財源	3,690,440 円	計	3,690,440 円
<小学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4年</td><td style="text-align: center;">国語・算数</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6年</td><td style="text-align: center;">英語</td></tr> </table>	2年	国語・算数	4年	国語・算数	6年	英語	<中学校> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr><td style="text-align: center;">1年</td><td style="text-align: center;">国語・数学</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2年</td><td style="text-align: center;">国語・数学・英語</td></tr> </table>	1年	国語・数学	2年	国語・数学・英語														
2年	国語・算数																								
4年	国語・算数																								
6年	英語																								
1年	国語・数学																								
2年	国語・数学・英語																								
決算額（財源内訳）																									
国・県	円																								
地方債	円																								
その他	円																								
一般財源	3,690,440 円																								
計	3,690,440 円																								

【担当者説明】

区 分	説 明	内 部 評 価
必要性	本市の児童生徒の学力の状況を把握し、学習指導の改善に活かすために標準学力調査の実施は必要である。	総合評価：B（継続） 必要性、効率性、有効性とも十分高いと考えられる。また、継続して実施することで経年変化についても把握することができることから継続が望ましいと考える。
効率性	業者作成の調査結果資料や事後指導指導に活用できるWEB評価支援システム等、効率性は高いと考える。	
有効性	本市児童生徒の学力状況を把するとともに指導改善に活かすために有効性は高いものとする。	

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

<p>小中学校において、学力向上は継続的かつ最重要課題である。本市においては、標準学力調査及び全国学力・学習状況調査を通して結果の把握・分析を行い、課題を整理して、授業改善に活かすなど計画的・重点的な学力向上推進への取組が実践されていることが伺えます。今後、標準学力調査の活用が弱かった点が考慮され、結果概要等が学力向上推進要項に明確に織り込まれること等から、児童生徒の学力向上や「生きる力」の育成に資する取り組みが充実することが期待できます。継続を図ることで、実りある成果を生み出していきたいと思っております。</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">総合評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> </table>	総合評価	B
総合評価			
B			

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

特別支援教育支援員配置事業

【目的・計画概要等】

- 目的
 発達の遅れや偏りなどがある困難を抱えた児童生徒の自立した学校生活を支援するために、特別支援教育支援員を配置している
- 事業概要
 教員の指導のもとに、声かけや見守り等、複数名の対象の児童生徒の安全面・生活面や、他の子どもとの対人面に関する支援を行う。

【実施状況】

市内小中学校16校から要望があった対象児童生徒243名に対し、15校に33名の特別支援教育支援員を配置 【配置校】 小学校13校 中学校2校 平良第一小学校（4名）、北小学校（1名）、南小学校（5名） 東小学校（7名）、久松小学校（2名）、鏡原小学校（1名） 西辺小学校（1名）、西城小学校（1名）、城辺小学校（1名） 砂川小学校（1名）、下地小学校（2名）、上野小学校（2名） 伊良部島中学校（2名） 平良中学校（1名）、北中学校（2名）	決算額（財源内訳）	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	61,513,545 円
	計	61,513,545 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	事業の目的である発達の遅れや偏りがある困難を抱えた児童生徒の自立した学校生活を支援するために、特別支援教育支援員の配置は必要である。	総合評価：A（拡充） 必要性・効率性とも十分に高いと考えられるが、対象児童生徒申請者数が毎年増加している現状を考慮すると、事業規模の拡大（配置人員の増）が望ましいと思われる。	総合評価
効率性	対象児童生徒243名に対して、対象者を年齢や状態により点数化し、その点数に基づいて33名の支援員を按分して配置しているため効率性は高い。		A
有効性	必要性や効率性の観点から、本事業の有効性は十分証明されている。逆に需要側の学校からは配置人員の不足を懸念する意見がある。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

前年度以上に特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあります。対象児童生徒の年齢や状態に応じて33名の支援員を按分し配置していることは、個々のニーズに応じた学びや支援が充実し課題解決に繋がっているものだと考えます。誰一人取り残さない切れ目のない支援を実施するためにも、支援員の役割は大きいと思いますので、事業の拡充を図り、学びの場の環境整備を図りながら自立支援に向けた効果的な取り組みが促進されるよう希望いたします。	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 図書館

【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

移動図書館事業

【目的・計画概要等】

遠隔地住民に図書館サービスが行き渡るよう移動図書館車にて巡回を行い、また図書資料の充実を図り市民ひとりひとりへ多様な本との出会い提供を行うことで、豊かな心と確かな和を育むことの出来る機会を提供する。

【実施状況】

令和3年度（R4年3月31日現在）			決算額（財源内訳）	
	巡回場所数	貸出冊数	国・県	0 円
小学校	11	7,699	地方債	0 円
中学校	5	352	その他	0 円
小中学校	2	1,006	一般財源	673,305 円
保育園・幼稚園	4	392	計	673,305 円
その他	7	1,441		
計	29	10,890		

5月・6月・7月・9月については新型コロナウイルス感染症対策のためは運休。

【担当者説明】

区 分	説 明	内 部 評 価
必要性	遠隔地住民が図書館サービスを楽しむことができるようにするためには、移動図書館車で巡回する必要がある。	総合評価：B（継続） 住民はどこに住んでいても図書館サービスを受ける権利があり、図書館はすべての住民に均質に図書館サービスが行き渡るよう努めなければならない。そのため、図書館への来館が困難な遠隔地への移動図書館の巡回は重要な役割を持ち、今後も継続していく必要がある。
効率性	多様な読書機会を提供出来るよう資料の収集や図書館で行っているサービスの周知を図っている。	
有効性	宮古島市民に広く読書の機会を提供出来るよう努めている。	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

スマホの普及にともない本を読まない人々が増えている中、少しでも多くの市民に本を届ける。この事業は未来へ向けての素晴らしい投資だと思います。聞けば図書館の数少ないスタッフで移動図書館を運営しているとのこと、何より運転手がないということがこれからの事業展開のネックになると感じます。車両が新しくなったが法規制の変更により若者がトラックを運転できない時代です。ぜひ中型のトラック運転のできる人を図書館に配置し移動図書館事業が円滑に展開できるよう切に臨みます。	総合評価 A
--	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

体育振興事業

【目的・計画概要等】

全ての市民が個人の体力や年齢に応じて気軽に実践できる生涯スポーツの普及発展を図るため、各団体と連携し各種スポーツ教室、講習会等を企画・開催するとともに、スポーツ推進委員を研修会へ派遣して軽スポーツ指導者の育成を図る。
また、市民の健康増進・体力向上を図ることを目的に軽スポーツ教室（かけっこ教室・キンボール・ソフトバレー）等を実施する。

【実施状況】

令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響のため、スポーツ教室は開催できなかった。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,053,535 円
計	1,053,535 円	

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	市民の健康増進を図る。	総合評価：B（継続） 令和2年度に引き続き、コロナ禍により各種事業の中止や体育施設の利用制限が相次いだ。しかし、ワクチン接種の普及に伴い令和4年度以降は感染対策や制限を設けた上での開催が検討されている。	総合評価
効率性	幅広い年齢層の市民が軽スポーツを体験・実施できる。		B
有効性	市民の健康増進や気軽にスポーツに取り組める環境づくりができています。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

市民の健康増進やスポーツ振興を図るため、各競技団体やスポーツ推進員等と連携して、サービス向上を図ってください。	総合評価 B
---	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央公民館

【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

【事務事業名】

みやこ少年少女合唱団補助事業

【目的・計画概要等】

目的
合唱を通して、情操豊かな人間性と協調性を培うとともに団体相互の友情を深め、良き青少年を育成することを目的とする。

計画

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・4月～ コロナ禍のため活動休団 ・4月17日 指導者会議 ・5月22日 活動再開 ・6月26日 合唱団役員会 ・7月10日 指導者会議 ・8月1日 役員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・10月2日 合唱団活動（校歌録音） ・12月予定 イルミネーション点灯式 ・12月26日 第44回定期演奏会（クリスマスコンサート） ・3月1日 新団員募集 ・3月27日 入団テスト、お楽しみ会 |
|---|--|

【実施状況】

実施内容	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・4月～ コロナ禍のため活動休団 <li style="width: 50%;">・2月11日 指導者、役員会議 <li style="width: 50%;">・4月17日 指導者、役員会議 <li style="width: 50%;">・2月26日 合唱団練習(多目的ホール) <li style="width: 50%;">・7月4日 指導者、役員会議 <li style="width: 50%;">・2月27日 沖縄県合唱連盟理事会 <li style="width: 50%;">・7月10日 沖縄県合唱連盟理事会 <li style="width: 50%;">・3月5日 合唱団練習(多目的ホール) <li style="width: 50%;">・8月28日 指導者、役員会議 <li style="width: 50%;">・3月12日 合唱団練習(マティダ市民劇場) <li style="width: 50%;">・11月3日 指導者、役員会議 <li style="width: 50%;">・3月20日 合唱団練習(多目的ホール) <li style="width: 50%;">・11月20日 市民運動実践協議会 設立15周年記念式にて受賞 <li style="width: 50%;">・3月21日 第44回定期演奏会 <li style="width: 50%;">・1月22日 沖縄県合唱連盟理事会 <li style="width: 50%;">・3月22日 新団員募集 	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	500,000 円
	計	500,000 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	市主催のイベント等に積極的に参加している。	総合評価：B（継続） 令和2年度に引き続き、コロナ禍により利用制限のため活動が休団した。2月26日から、中央公民館多目的ホール、マティダ市民劇場にて合唱団の練習が再開された。合唱団は、長年にわたり、青少年育成に寄与している。 団員数：48名 大会・イベント等回数：14回	総合評価
効率性	県の合唱祭や市主催の演奏会を実施。		B
有効性	イベント等での市歌合唱。		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

宮古島市の数多くの事業に華を添え、市民に愛される「みやこ少年少女合唱団」ですが、中央公民館が管轄だときいて「あれ？」とちょっと違和感を感じました。公民館の活性化で結成したのかなと思います。これから合唱団の結成50周年へむけて忙しくなると思います。中央公民館だけでなく生涯学習振興課、学校教育課とも連携をとりながら指導者の皆さんや父兄の負担を軽減する努力も必要を感じます。市主催の各種イベント会場への移動等、予算も含め十分な配慮をお願いしたい。	総合評価 A
---	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の継承、文化・芸能活動の推進

【事務事業名】

宮古島市マティダお笑い劇場支援事業

【目的・計画概要等】

製糖期の疲労回復やリフレッシュを意味する「ブガリノース」をテーマに、宮古方言等を交えた軽妙なトークで「笑い」の舞台から届けることで、伝統文化及び方言の継承と、新たな地域文化の創造を図ることを目的に毎年実施している。

【実施状況】

令和3年度は前年から続く新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、舞台活動に大きく制限がかかる状況の中、令和4年3月20日（日）に「明日へかける橋」を上演し、奇想天外な展開は、約400名の来場者を笑いの渦に巻き込んだ。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	637,333 円
	計	637,333 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	市民の文化芸術の振興と、地域の方言等の継承を図る。	総合評価：B（継続） 地域文化の継承・振興を担う市民劇団として、その設立には市が大きく関わっている。劇団が今後自走するためにも、独自の財源確保の取り組みを促しつつも、コロナ禍の影響が大きく残る現状を踏まえると、一定程度の市教委の支援継続は必要であると考えられる。	総合評価
効率性	市民が参加できる唯一の劇団であり、演劇を通じた舞台上の表現を行う。		B
有効性	市民の表現するチカラの向上と、演劇を通じた伝統文化の継承及び創造力の醸成が図られる。		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

宮古島に移住者が増えていく中、地元の若者さえ古からの慣習や言葉が忘れ去れていく中、宮古島の伝統や言葉、風習を未来へ引き継ぐ事業と捉えます。「ブガリノース」日本語で直会（なおらい）か 明日への活力を養うためにも必要な事業だと思います。また、劇団かなやらびで演劇の面白さに目覚めた子供達の卒業後のステップとして必要な事業だと思います。マティダ市民劇場のさらなる利活用や支援の仕方等々、伝統文化の継承も含め支援のあり方の改善継続が望ましいと思います。	総合評価 B
--	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸能活動の推進

【事務事業名】

宮古島市neo歴史文化ロード整備事業

【目的・計画概要等】

宮古島市neo歴史文化ロード「綾道（あやんつ）」として、「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とした伝説と、民話に彩られたロマン溢れる「宮古島市特異の歴史と文化」を巡る新たな散策コース等の整備を行い、新たな観光資源の一つとして広く活用する。令和3年度は、新コースである下地南・上野野原コースの策定とパンフレットの印刷製本を行い、関連して文化財案内板及び標柱の設置と、綾道全体の総合マップの作成を行う。

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
<ul style="list-style-type: none"> ・『綾道-上野野原・下地東コース-』の策定、発刊（12,000部） 市役所、図書館、博物館などの公共施設で配布 ・『綾道』総合マップの作成、案内板設置（3基） 市役所1階ロビー、歴史文化資料館に設置 ・web公開システムのコース追加 下地南、上野野原コースと、刊行物ダウンロード頁の追加更新 ・文化財説明板及び標柱の設置 新規説明看板1基、新規標柱2基、既存の説明版への機能追加によるプレート設置12基 	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,400,000 円
	計	16,999,000 円

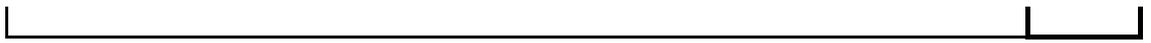
【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	宮古島市の文化財を散策し、情報発信を行う事業として必要である。	総合評価：E（完了） 『綾道』は宮古島市内の文化財散策冊子として令和3年度に全10コースが完了した。『綾道』は市民及び観光客からの需要も多く、宮古島市の歴史と文化の普及・啓発に果たす役割は非常に大きい。なお、事業完了後も、引きつぎ事業成果の利活用に努めるものとする。	総合評価
効率性	紙ベースとしての冊子とともにインターネット上でも情報発信を行っている。		E
有効性	『綾道』の冊子を求める市民及び観光客も多く、総合マップでの利活用も進める。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

平成26年（2016年）3月に平良平良北コースが発刊されてから令和4年3月の上野野原・下地南コースまで足掛け6年、全10巻の綾道発行お疲れ様でした。綾道をみて郷土の歴史に興味を持った方も多いと思います。WEBでの公開も完了し本当によい事業だったなど。できればこのチームでもっともっと郷土の歴史を発掘して発表する機会があればと思います。お疲れ様でした。	総合評価
	E



宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：総合博物館

【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

【事務事業名】

1. 博物館運営事業（企画展等の開催、調査研究等の事業）
2. 企画展事業（収蔵品の修復、製作等の委託事業）

【目的・計画概要等】

宮古に関する資料を収集し、それらを後世に伝え遺すため適切な環境下で保管するとともに、必要に応じて資料の保存修復を行う。また、宮古に関する調査研究を進め、展示会や講座、紀要等を通して研究成果を公開することで、広く市民へ宮古の歴史や文化、自然等の地域の財産を継承していく。

【実施状況】

1, 博物館運営事業 ・ミニ展示「宮原昌茂展」 入館者数1,055人 ・第38回企画展「令和2年度新収蔵品展」 入館者数1,852人 ・教育普及活動 子ども博物館2回開催 ・出前講座 平和学習講座 中学校2校 ・刊行物 紀要第26号、年報No.30 令和3年度入館者数6,255人（対前年度より634人増） 2, 企画展事業 ・収蔵品保存修復委託（7点） ・剥製、骨格標本作製委託（4点） ・紙芝居制作委託（学童疎開） ・視聴覚資料デジタル化委託	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	1,088,500 円
	一般財源	40,892,600 円
計	41,981,100 円	

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	博物館法に基づく事業で、宮古島の歴史や文化等の継承のために必要である。	総合評価：B（継続） 新型コロナウイルスの再拡大により、令和3年度も企画展等の自粛や再延期が続いた。そうした中でも、ミニ展示や企画展、子ども博物館等、開催できた事業もあり、更に研究を深め公開に向けて準備を進めている。 また、施設については、修繕や機能改善等の計画及び実施が必要である。	総合評価
効率性	企画展等を開催することで、歴史、文化等を周知することができる。		B
有効性	来館者や地域住民、特に子どもたちに、活動を通して文化の継承に資することができる。		

*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【外部評価】

博物館については、コロナ禍のなか来館者の数も増加が見込めず厳しい運営が続いているのかなと感じました。そうした中で創意工夫を凝らし企画展や子ども博物館、中学校への出前講座等の事業を積極的に企画し宮古の歴史・文化の紹介継承に多大な貢献をしていると感じます。コロナもそろそろ終息し予算の厳しい中ではありますが国や県の補助事業をも検討し、宮古の伝統・歴史文化の継承につとめてください。 また、デジタル博物館や資料のデジタル保管等の計画もしているとのことなのでIT技術を駆使して博物館で展示しきれない収蔵品の公開をすすめてほしい。現在の博物館はめだたない場所でアクセスの悪い博物館ですが、築35年を超える老朽化した施設の更新も考えていかなければいけない時期にきています。利便性のある博物館の計画を希望します。	総合評価 A
--	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

課題を抱える児童生徒の支援事業

【目的・計画概要等】

いじめ、不登校、児童虐待等、生徒指導上の課題を抱える児童生徒に対し、関係機関や児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけ、課題の改善を図ることを目的とする。
個々に応じた支援の充実に向けて、SSW（スクールソーシャルワーカー）を教育委員会に配置する。また、問題行動等課題を抱えた児童生徒に対しては、適切な指導・支援の取り組み強化のため問題行動等に対する学習支援員を在籍する学校に配置する。

【実施状況】

<p>【令和3年度の支援状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーは、配置予定人数の5名を配置することができた。5名を各担当校に配置し、支援を行うと共に、学校・福祉・医療等の各関係機関と連携し、児童生徒の家庭環境改善に取り組んだ。 <p>(支援対象児童生徒数)</p> <p>R2年度：小学校55名 中学校44名</p> <p>R3年度：小学校41名 中学校36名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等学習支援員は、3名を3校に配置することができた（東小学校・平良中学校・北中学校）。対象児童生徒に対しての登校支援や相談活動、学習指導、校内生徒指導体制等の充実を図っている。 	決算額（財源内訳）	
	国・県	15,188,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,839,788 円
	計	19,027,788 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	貧困問題や親の養育能力の低下など児童生徒を取り巻く環境は、多様化、複雑化し、支援内容も難しくなっている。	<p>総合評価：A（拡充）</p> <p>課題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、学校・福祉・医療等の各関係機関との連携や校内生徒指導体制の充実も重要となっている。</p> <p>【成果】</p> <p>SSWに関しては、支援対象児童生徒の情報を関係機関と共有することで、役割分担が明確化され細やかな支援体制が構築されている。問題行動等学習支援員に関しては、支援員による登校支援や学習支援、教育相談活動を通して対象児童生徒への計画的な支援が図られている。</p> <p>R3：登校復帰率29%（4ポイント増）のうち83%は支援員配置校（11ポイント増）</p> <p>【課題】</p> <p>問題行動等学習支援については、学校からのニーズが多く、支援の増員と人材確保が課題である。</p>	総合評価
効率性	SSWは派遣型の体制で、学校からの要請により生徒指導主任や教育相談担当等と連携を図っている。問題行動等学習支援員は、配置校において対象児童生徒に対して登校支援や相談活動、学習指導、校内生徒指導体制の充実を図っている。		A
有効性	関係機関との連携や校内生徒指導体制の充実を図ることで、多様な課題の解決に取り組むことができる。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

<p>課題を抱えている児童生徒は、単に子どもだけへの対応だけで改善が図られるものではない場合が多い。福祉課等との連携で、保護者の問題も含めて解決を図る必要がある。SSW、学校支援員、相談員等を有効に活用し、問題解決を図ってください。</p>	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進

【事務事業名】

放課後子ども教室

【目的・計画概要等】

<目的>
地域社会の中で心豊かで健やかな子どもを育むため、放課後や週末等において、余裕教室等を活用し、安心・安全な活動拠点（居場所）づくりを行う。

<事業内容>
・予習や復習、宿題の見守り等の学習活動 ・スポーツや文化活動、植物栽培等の体験活動
・地域の大人や異年齢の子どもとの交流活動 ・生活指導や家庭との連絡等 ・その他必要な活動

<実施方法>
市内の小学校を対象に募集し、応募があった学校で事業を実施する。

<令和2年度事業計画>
実施予定校 6校

【実施状況】

<令和3年度実施状況>						決算額（財源内訳）	
実施教室	実施回数	参加児童数	教育活動推進員等	実施場所	実施内容	国・県	円
北小教室	47回	980名	6名	地域連携室等	宿題、折紙、将棋等	1,003,000	円
南小教室	9回	608名	6名	図工室	宿題、フラ板、一輪車等	0	円
平一小教室	10回	307名	5名	特別活動室	宿題、読み聞かせ等	0	円
西辺小教室	1回	53名	2名	体育館	ドッジボール	519,771	円
狩俣小教室	4回	50名	6名	体育館等	キックベース等		
5教室	24回	1,018名	19名			計	1,522,771 円

【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	共働き家庭か否かにかかわらず、全ての児童が参加可能であり、放課後等を安心・安全に活動をするためには必要である。	総合評価：B（継続） 事業を実施している学校について、今後も継続できるよう、教育活動推進員等の人員確保に努めていく。 未実施の学校については、特に児童数が多い学校において、教室等の空き状況や需要を踏まえ、実施に向けて取り組む必要がある。	総合評価
効率性	児童数が多い学校において、未実施の学校があるため、実施に向けて取り組む必要がある。		B
有効性	放課後等に宿題や物作り、運動等の活動をすることで有意義な時間を過ごすことができている。		

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

<p>コロナ禍により実施が困難であった「放課後子ども教室」が令和3年度においては、5教室71回、参加児童数1,998人、教育活動推進員25人で、より充実した学習活動が行われ、子供たちが放課後の時間を安心・安全に有意義に過ごしていることが伺えます。今後も事業を継続し教育活動推進員の増員や実施校が増加するよう、学校と地域社会が協働した「居場所づくり」に向けた取り組みを推進していただきたいと思います。</p>	総合評価
	B